

副 議 長 受付番号第10号、大館秀孝君の一般質問を許します。登壇願います。

1 2 番 大 館 最後の質問になりますので、よろしく願います。受付番号第10号、質問議員、12番 大館秀孝。件名、松田町の全町的な活性化策を問う。

要旨。本町は中心市街地と寄地区の周辺部に分かれているので、画一的な活性化は必然的に無理な町の形です。市街地では町営住宅初め、これからの計画も含め、多額な財政出動され活性化が図られています。寄地区でも、ドッグランを始めYHV事業等推進されていますが、限られた資源を生かした、より一層オール松田的な活性化策について、どのように考えていただけるかをお伺いいたします。

よろしく願います。

町 長 それでは、大館議員の御質問にお答えをさせていただきます。まず、第6次総合計画の策定に向けてニーズについてのアンケート、また各団体等や地域座談会などからいただいた御意見、御要望の中で、最も要望等の高い事業として小学校整備事業や駅周辺整備事業などの大型公共工事がありまして、これを全町的な体制で推進していくためには町民の皆様方の御理解と御協力を賜り、各事業を進めているという状況でございます。

そうした中、町財政の将来推計等を見ますと、今以上の創意工夫による行財政運営を進めていかなければなりません。議員がおっしゃるとおり、限られた財源を有効活用するためには、町民相互の理解と協力を賜り、計画的に取り組むことが重要であると考えております。寄地区においては、第6次総合計画にもお示しをしているとおり、寄地区住民の意向として、松田地区と比較しますと、健康・福祉の増進や自然・景観の保全や活用に対して高いニーズがあることがわかりました。それによって、寄地区のまちづくりの方向性と取り組みについては、町全体の将来像であります「いのち“育み”未来へ“ツナグ”進化“つづける”故郷」を実現するため、現在進行形になりますが、森林等の自然環境の保全や農村ならではの体験ふれあいなど、地域資源を生かした魅力づくりや寄地区全体のブランド化を目指しているところでもございます。

現在までの取り組みの状況を申し上げますと、平成28年度より地方創生関連交付金などを活用した事業として、1つ目に寄七つ星ドッグラン&カフェの整

備事業を皮切りに、ロウバイまつりのさらなる集客の強化、また木質バイオマス資源である森林間伐材の活用や小水力などの利用による寄地区ならではの資源環境を生かした自然再生エネルギーの推進、ハイキングコースや遊歩道の維持・修繕によるハイカーの確保、寄自然休養村事業として管理センターやグラウンド、テニスコートの活用促進、養魚組合様のサクラマスのPRなどのソフト面でのサポート、有害鳥獣対策、合併処理浄化槽整備の推進、水源の森林づくり事業の推進、町有地や公共施設等の官民連携による有効活用の検討、地域集会施設などの耐震化や建てかえによる安全・安心な町民の居場所の確保、既存の民宿や一般の家庭の家屋を利用した農泊事業の推進、荒廃地対策として昨年、遊休農地を5反開墾し、酒米を復活させ、町内酒造会社様の御協力によるオール松田産のお酒「松田美人」の完成、15年ぶりとなる認定農業者1人が誕生し、新たに民間企業1社の認定、新規農業者によるお茶のブランド化、本年より関係人口増加策として新たに事業を展開するなど、寄地区にしかない魅力のある地域資源を生かす事業を、地元の方々はもとより町外の方々にも御協力を賜るなど、積極的に現在取り組んでいるというところでもございます。

そうした中、寄地区の活性化については、地域の皆様方や関係団体、企業の方々の御理解と御協力により、観光客数は増加傾向にあります。メディアへのPRも含め、多くの方々に町の知名度やイベントが浸透した結果が、少しずつではありますが出始めているのかなというふうに分析しております。しかしながら、お客様の入り込み数は天候やイベントのトレンドにも左右されやすいものではありますので、町といたしましては、今後もロウバイまつりを初めとするさまざまなイベントや豊かな自然環境に魅力的な価値を加え、より一層盛り上げていけるよう、実行委員会や関係各位の御協力やアイデアをいただきながら、町としてできることを精いっぱい取り組んでいただき、交流人口の増加につなげてまいります。

また、第6次総合計画の観光推進体制の充実や観光資源の活用と開発に位置づけられております寄七つ星ドッグラン等の整備、運営についてはYHV事業の拠点として引き続き、観光振興につなげてまいります。このYHV事業は、寄地域に存在する観光資源等の発掘や活用を初め、管理センターのあり方の検

討や松田ブランド認定事業と連動したものづくりにも取り組んでまいりました。地域に点在する施設、食、人、物、文化、歴史などの地域資源を結びつけることで、こういった地域資源の活用と魅力の発信を効果的に行ってまいります。さらに、寄ファンの形成や産業の創出を通じて、地域内での経済循環ができる持続可能な仕組みづくりにも取り組んでまいります。

特に地方創生では、地域を知ること、地域を好きになること、大切にすることなど、「もの」の視点ではなく、ライフスタイルの視点で地域の価値を高めていくことが必要です。近年では、お茶摘みなどを含めた農業体験ツアーなど、「こと」体験型観光に人気が集まる傾向があることや、寄地域には都市部では味わうことができない農山村地域ならではの魅力があふれていることから、交流と賑わいの場の創出と参加者がわくわく感や楽しさを体感できるフレームを提供していくために、新たな交流人口増加策として昨年より、農山村に泊まる事業、いわゆる農泊事業に取り組んでいるところでもございます。こうした事業を推進することで、新たな企業等を誘致して、雇用の場所の確保や地域経済を回すことに当たり、ないものねだりをして時間だけが過ぎるのではなく、まず既にあるものを今のまま生かす仕組みを構築することで、地域住民の皆様方のニーズに応えつつ収益の向上や雇用の創出につなげてまいりたいとも考えております。

また、こうした地域資源を生かすためには、鳥獣被害対策を強力的に進めなければなりません。特に、なかなか課題解決が見つからない状況でありますヤマビル対策につきましては、地域にとっても、当然町にとっても大きな課題でありますので、ヤマビル被害と生息数の減少に向け、国・県への要望活動だけでは減少が見込めない状況でございますので、多面的な対策として先行して実施している自治体への聞き取りや、県初めとする関係機関等の専門的な方からのアドバイスや実際の現場を体験し、その中からの対策やノウハウを学び、地域住民の意見交換から何かを得るなど、さまざまな角度からヒントを見つけ、地域ができること、行政がやらなければならないことをしっかりと行動してまいりたいというふうに考えております。

また、新人ハンターの発掘や、スキルアップを図るため、平成29年度に鳥獣

被害防止対策推進協議会を設置いたしましたので、町と協働してハンター育成事業を推進し、あわせてジビエ料理等の普及と促進にも引き続き取り組んでまいります。

最後になりますが、今後、厳しい財政状況を迎える中、こうした地域のさまざまな課題を一つ一つ解決し、町民や団体、企業、行政がともに汗をかき、自発的な協働並びに新たな連携協力をスタートしていかなければなりません。そのためには、現時点から意識と覚悟を持ち、寄地区と市街地と比較をして事業を行うものではなく、各地域の魅力と必要性を最大限に引き出す事業を町民と一体となってオール松田で人と人、人と地域、地域と地域をつなぎ融合させ、さらなる活性化を図り積極的に取り組む必要があります。国・県等のさまざまな補助金を獲得して依存財源を確保していくことは当然のもちろんのことですが、マンパワー等での取り組み内容も検討し、地域のさまざまな資源は地域の宝であり、その資源は町民の皆様の生きがい、やりがい、資源、財源など、生活の礎にも変化することと考えていますので、既存の取り組みを初め、日本に一つしかない寄地区の魅力地域を地域の皆さんと考え、その仕組みづくりを進めてまいります。

そのためには現在、寄地区の皆様方が取り組まれております農業体験や藍染め体験、ロウバイの種子落とし体験などの寄ならでは体験メニューをワンストップにて取りまとめができる窓口やお客様との発信、受付窓口があることが理想となりますので、今回の補正予算にも計上させていただいております関係人口創出・拡大事業の中でも、そういったワンストップ窓口の開設に向けた人材育成、確保、体制整備の可能性も探ってまいります。議員におかれましても、寄地区の伝統や歴史を踏まえた寄地区の魅力づくりについて、引き続き、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。終わります。

12番 大 舘 町長はですね、懇切丁寧な答弁をいただきましたので、再質問の必要がないような答弁でしたので、非常にありがたく思っています。その中で私が感じていることを質問をさせていただきます。

まず第1点目にですね、去年度ハンター育成事業を実行していただきました。その成果としてですね、いろいろあらわれて、目に見えたものがあらわれ

てきています。それから、それ以前からも取り組んでいるわけですが、移住者の促進の中でね、特に、女性のハンターがですね、移住してきていただいて、その人がことしめでたく地元の方と結婚された。それでもう1人、東京からですね、これは男性なんですけども、移住をしてくれました。個人的な話になりますけども、その人もパートナーができて、恐らく結婚するのかなという。それも全く、寄地域の人じゃなくて、また1人人口がふえるのかなと期待をしているところですけども、それをみんなで盛り上げてですね、そういう形に持っていかうかなという、考えているところ、我々の仲間でもですね。

実際に、そういう成果も出ているわけですけども、3月議会で私、荒廃農地のことで企業化できないかというような質問をさせていただきました折にですね、今、寄地域、松田のミカン畑もそうでしょうけども、農振農用地の中でね、荒廃地が相当あると思うんですけども、両地域を合わせてですね、どのぐらいの面積があらわれるのかは、ちょっとわかったら教えていただきたいと思います。

参事兼観光経済課長 ただいまのですね、荒廃農地のですね、総面積は、46ヘクタールです、なっ  
てございます。以上です。

1 2 番 大 館 46ヘクタールというと、松田町全体の農地面積からして何%ぐらいですか。

参事兼観光経済課長 松田町の農地の総面積が約200ヘクタール、市街化区域も含めてござい  
ますので、4分の1が荒廃農地になっているということになります。

1 2 番 大 館 非常な、非常に大きな面積が荒廃地化しているわけですけども、私は住  
まいが寄ですから、特にお茶畑の荒廃が年々ふえているのが目に見えている。それ  
でですね、場所的に余り経費がかかりすぎるようなところじゃなくて、傾斜  
地も緩やかな、平らに近いようなところも相当、農家の高齢化とか進んで荒廃地  
化しているわけですけども、寄のお茶、皆さん御存じだと思いますけども、  
相当おいしい、上質なお茶がとれるわけですよ。ですから、その再開発とい  
うか、そこを寄のお茶としてブランド化をするために、改めて特産品をつくるん  
じゃなく、現実にあるものを再利用するというか、そんな形で管理のしやすい  
ような土地をですね、地主から借りて、いろいろ中間管理機構かな、農地中間  
管理機構、そのアンケート等でまとめられていると思いますけども、その管

理機構が手がけてくれればいいけど、今、目に見えて何も動いてない…動いてないって動けないわけですね。年々目に見えてふえている、荒廃地が。ですから、体験…今、先ほど、町長答弁の中にありましたけども、体験農業でその茶園を、何ていうのかな、また再利用できるような形、それが手入れをすること自体を体験農業として取り入れた。そういうことであれば相当広い面積がですね、解消できると思うんですよ。そういう…当然、経費もかかりますから、全てすぐやれという話じゃありませんけれども、町長答弁の中にもありました、県とか国の補助金等を有効活用して、そういうものができないかどうかね。お茶をつくれれば必ず、かなりのいい値段で売れる可能性があるんですよ。ですから、本格的な手入れをしてですね、そういう高級品をつくる。今、茶来未さんですか、会社。丹沢茶ですか、丹沢大山茶、ブランド化されているようですが、そうじゃなくて寄茶として、松田町寄茶としてブランド化をする。改めて特産品を開発するんじゃないで、あるものを利用するというのも、手っ取り早く安価にできる可能性があるんですけども、その辺の取り組みが可能かどうか、ちょっとお伺いします。

参事兼観光経済課長

大変いい御提案をいただいたと思っております。今、先ほどからのお話がございませうように、やはりお茶畑の荒廃というのがやはり目立ってきまして、寄の自然休養村の風景としてもですね、お茶畑がきれいに整っているのが一つの風景だと私も思っておりますし、今、先ほどおっしゃっていただいたように、実際にもうそういうような形で、先進的にやられている方もいらっしゃいますのでね、その方も、やっぱり今、もともと0.5、5,000平米だったところをこの年末でですね、ふやされて、今、約8,000平米のですね、お茶畑をやられて、今そこに寄の方が1人、ちょっとそこで修行というんですか、たまたまそういうところでやられるというお話も聞いていますので、その方もちょっと中間管理機構のほうを活用されてですね、また自分でお茶をやりたいというふうな意向の方もいらっしゃいますので、そういうところもですね、町のほうでもしっかり支援しながらですね、今おっしゃっていただいたように、足柄茶という神奈川県ブランドありますけど、やはり寄のお茶ということで、やはり先ほどお話しいただきました丹沢大山茶と同じ

ように、やはり少ないんですけど、やはり価値があるというような、やっぱりものをつくっていくということは必要なことだと思っていますし、また今言っていたように、農泊体験を通してですね、そのお茶のそういう整備とかも一つですね、農業体験等に結びつけていながらですね、いろいろな形でいろんな農泊に結びつけていく、いろんなそういう農業体験というのを見つけておりますので、それと組み合わせるような形でですね、また実際に、そういうことが現場でやはり指導していただける方も寄地区の中にたくさんいらっしゃると思いますので、その方たちともよく相談をさせていただいてですね、農作業の点については寄地区の方と、それからブランド化については、先進的な事例をお持ちの方等とですね、相談していきながら、かついい補助金等があれば、しっかりと捉えていきたいと考えております。以上です。

12番 大 館 今、先ほど要旨の中で話をしましたけども、これから大きな財政出動できないわけですから、稼げる、そういうものを考えていくときに、あるものを利用する、知恵と汗をかけば必ずできると思います。ですから、そういう取り組みをぜひ進めていってほしいと思います。

それからですね、きのうの誰かの一般質問の中で、松田町の立地条件というか、地理的条件というか、東名高速のインターがある、小田急線がある、御殿場線の駅がある、県西地域では一番の立地条件にある。中央の東京、横浜、川崎、大都市にすごく近いわけですよ、日帰りコースもできるんでね。そういういい立地条件の中にいるわけですから、それを最大限生かすためには、やっぱり受け入れるほうの我々が知恵と汗を出して取り組めば、他の町村よりは優位な条件にいると思います。

そこでですね、先ほど、ちょっと話がありましたけども、民泊関係で、今、大井町の事例を勉強されて、今、有志の方が座談会方式で、何て言えばいいかな、うちのほうの管理センターで、の2階でやられたようなんですけども、その中の話か、その前の話かわかりませんが、中学校の跡地を民泊にしたらどうよというような話も出たそうです。ですけども、今、あそこに小学校があつてですね、不特定多数の方が出入りすると、非常にセキュリティー面から見る

と、ちょっと問題があろうかなと思います。

それですね、跡地利用について、町でもそれなりの思案はされていると思いますけれども、きのうの新聞にね、政府の地方創生方針の素案の中で、地方に若者を呼び込むため、東京都内にある大学のサテライト拠点の誘致を後押しする、拠点に廃校舎などを活用する構想、こういうのが素案が出たそうです。ですから、大学のそういうサテライト拠点ということであれば、教育関係ですから、非常にいいのかなというふうに考えます。それで、今言ったように東京都に非常に近いわけですから、いろんな課題、解決できる部分があると思います。自然豊かだし、静かだし、教育の場としてはすばらしい場所だと思いますけれども、その辺、教育長、もしお考えがあられたら、お願いしたいと思います。

町 長 今の…すみません、私のほうから。教育関係から今、離れちゃっているのですが、建物自体は。ハード的にはこっちのほうで、部局で管理しているので、お話をさせていただきます。昨年来から、閉校に向けて町民の方の御理解をいただきながら本当に3月をもって閉校式を迎えました。その閉校した後の学校の利活用についてはどうだということで、この議会でも御質問を多々受け付けておりましたので、そのときの答弁と同じようになりますけれども、その当時は、まずは閉校に向かって皆さんが一丸となっていてとこなので、閉校が終わって、終わった中でもう一度、それから町民の方々のニーズといいましょうかね、今言われているような話を全体のところの中を通じて話をいただき、それにあわせて、町としての考え方というか提案といいましょうかね、こういったことの方法もありますよということの中で、皆様方の意見交換した後に、今言われているようなところに出してですね、オープンにして、この地域ではこういうものを求めていますと。公共施設として今、使っていないところありますからどうですかというのを登録しながらやっというふうにご検討されているところで、今現在まだそこまで、まだちょっとこちらの準備も整っていないところもありますので、ちょっと準備が整い次第ですね、地域の方々とこのそういう交流を持って、方向性を決めながら進めていくつもりでいます。以上です。

12番 大 舘 わかりました。これも政府が取り組む事業なので、恐らく補助金等も含めて

ね、相当つくとは思うので、その辺の取り組みをぜひ、教育関係で利活用していただければと思いますので、これは要望で終わります。

それですね、二、三の学校の話が出ましたから、ついでに話をさせていただきますけど、幼稚園の寄、ことし1人もいなかった。もう統合等の考えをしたらどうかというような意見とか、スクールバス買ったんだから、もう小学校も統合しようというような、そんな意見が、もう議員の中で話が出ているわけですけれども、その寄地域で、周辺部の中でね、学校の存在というのは意義があるわけですよ。簡単になくすというわけにはいきません。いろいろな面で、その地域の核になる場所だと信じてますけれども、学校の存在というのを教育長はどのようにお考えでしょうか。

教 育 長 学校は、やはり地域にとって非常に大事なことだと思いますし、地域の方々にとっても、非常に子供たちがそこで学び、育っていくという部分においても活性化につながるものであり、大事なことだと思っております。ですから、確かに寄中学校が統合して、恐らく寄地区の方々も非常に寂しい思いもされている部分があると思います。そういった中で、いかにまた小学校中心に寄地区の方々を活性化していこうかということで、小学校のほうも地域懇談会ということで、夜、会合を持ったり、私のほうも参加させていただいておりますけれども、そういった中で、やはり学校を中心に盛り上げていこうという考えもありますので、やはり地域の方々の御期待あるいは意見、そういったものを大事にしながら考えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

1 2 番 大 館 ありがとうございます。先日ですね、運動会ありました、地域参加型の運動会。小さな学校だからできること、大きな学校じゃなきゃできないこと、教育の中でいろいろあると思いますけども。テレビでよく、朝の天気予報か何かの番組で、林修さんという方が教育、人間を形成する三大要素の中で一番大事なことは自然体験をすること、そういった体験をした子供は全然違うんだというようなことを言われたそうです。私、直接聞いてませんので。ですから、いかに自然が大切かということであれば、寄地域、生徒数は少ないわけですけど、その中で伸び伸びと育った子供たちが、もう世の中に出てですね、自慢話になってしまいますけども、寄地域で育った子供たちは、世間に世の中に出て、余

り悪いことをしたという、中にはいるかもしれませんが、そういう新聞に出るようなことは一切ない。どんな小さな学校でも堂々と溶け込んでですね、大きな学校で育った子供たちと溶け込んで活躍しているというのは現実ですから、小さな学校でも大事にさせていただきたいと、そんなふうを考えていますので、よろしくをお願いします。

それから、移住をしてもらって、人口をふやすということですね、少子化担当課の課長まで当寄地域から出ていられます。ですから、学校がなくなったら絶対に子育て中の人たちは来ませんよね。その辺を念頭に置いて、そのいかにもっと子供をふやすか、そういうことに集中させていただいて対策をしてもらいたい。先ほど話しましたように、ハンター育成事業の中でね、人が来て、実際にそこで結婚して、将来子供が生まれる可能性もあるわけじゃないですか、もう1人の彼氏もね、パートナーができて、恐らく結婚すると思います。うんと仲よしだから。それは個人的なもので、そういうことで大変申しわけないんですけど。大寺に住んでいます。ですから、そういう人たちをふやすためにも絶対置かなくちゃいけないと、私は考えています。

それでですね、人口をふやす、子育て世代をふやす手段として、以前話したかもしれませんが、ロウバイまつりに来たお客さんがね、ここへ移住したいんですけどという話を、空き家ありますかねという。できればね、寄地域ではロウバイまつり、それから若葉まつり、それから桜まつりね、あとは釣り大会とか、いっぱいイベントあるじゃないですか。どの会場行っても、そういうPR、ポスターもパンフレットも何もないわけですよ。今まで、きちっと定住少子化担当が設置されて、移住関係について力入れてこられたと思います。それはいろんなほかの方面で事業展開されてきたと思いますけども、肝心なもの、そういうすぐ来たお客さんとかね、来町者に対してすぐ目立つようなもの、そういうアピールの仕方、それがちょっと欠けていると思いますけれども。パンフレットなりポスターなりをね、目のつくところへ置いてもらえれば、一々店の御主人に聞いたりとか、その辺に歩いている人に聞かれるよりは、もうすぐ一目瞭然わかるわけじゃないですか。それ、相当の、ことし3万人近いロウバイまつりも来場者があったわけですから、その効果というのは相当ある

と思うんですけども、ぜひ早急にですね、そういう目につく、来場者に目につくPRの仕方をしていただきたいと思いますけども、どうでしょうか。

定住少子化担当課長 御意見ありがとうございます。確かに、いろいろと寄でもお祭りを開催しているという中では、そこに来ていただいた方に対してどういうふうにアプローチしていくのかということは大事なものの一つだと思います。これまで、松田町の外に出て行ってアピールをするという機会は多分にあったと思いますが、来た人に対してどういうふうなアプローチをしていくかということは、また一つやり方としては、いろいろ考えながら進めていきたいと思っています。ことしの分、ことしから積極的に取り組んでいきたいと考えてございます。以上です。

12番 大 舘 ありがとうございます。やっぱり目につくものをね、提示しないとわからないわけですよ。中には、私みたいに恥ずかしがり屋の人は、聞けないじゃないですか、人に。目で見れば自分で認識できる、一番いい方法だと思います。ですから、いろいろ今、課長が言ったようにね、対外的にそういうものの行動はされていたようですけれども、やっぱり一番大事なことは、もっと簡単にお金もかからない…多少かかりますね、ポスター制作料はね。そういう方法でアピールしたほうが効果的かなというふうに、より思います。

やっぱり、寄地域の中にいっぱい、何ていうのかな、売り出せる資源というのが、町長答弁の中にはありました。自然は豊かだし、水はきれいだし、藻谷さんという方が中学校のね、講演をしていただきましたときに、ちょうどね、私出会ったんですよ、土手を歩いてこられた、田代橋のほうからずっと。やっぱり話をするのに状況を見られたと思うんですね。こんなに水がきれいだと、こんな条件がいいとどこにもないんだというような、そういうお褒めの言葉をいただいたわけですよ。ですから、何ていうの、それを売り出すという、売り出すという表現はおかしいかもしれないですけど、アピールできる素材じゃないですか。緑だけじゃなくてね、やっぱり人間、川の水がきれいだと心安らぐとか、水の流れを見ていると一日見ても飽きない。ちなみに、うちの前の河原はちょっと石を並べさせていただいて、子供たちが水遊びをしています。一日遊んでも全然飽きない。それに、水が水量が多くないから、安全

面は完璧です。ですから、それを活用しなきゃね、活用しない手はないと思います。先ほど言った、知恵と汗かけば、幾らでもお客さんが来られる可能性がある。

それと、先ほど、桜まつりは今、正式には、土佐原の桜まつりがメインでやっていますけど、今、皆さん職員の方も皆さん知ってられると思いますけど、中津川の土手、右岸ですね。左岸にも少し植わっています、それで五大桜とか。いっぱい枝垂れ桜があるじゃないですか。それで土佐原地域では、荒廃農地へ桜植えてもらって、またこれからも里地里山の事業でボタン桜を植えられ始めていますので、恐らくは、あの山いっぱい桜山になると思うんです。ですから、それを売り出してですね、やっぱり、ただで見ていってもらっちゃ困るわけですね、管理が必要ですから。何かの方法で、ことし桜まつりでやられたように、協力金をお願いする、それを管理費用に充てるとか、それを財源にして、もっとふやすとかいうこともできるわけじゃないですか。ですから、ぜひそういう形をとっていただきたいなど。

それと、今は全く無償で川の向こう側に遊歩道も土木でつくってもらって、かなりの人が桜の満開の時期に来られていました。それらを、やっぱり見られる方にですね、協力をお願いするには、クラウドファンディングとかね、そういう手法も可能だと思うんですけども、そういう対応をしてですね、人を呼ぶ、交流人口をふやすことによって定住人口もふえる、そういうシステムになっているようですから、可能性は膨らんでくるわけじゃないですか。それで、寄地域の空き家もかなりふえています。先ほどの飯田議員の質問の中にも、うちの周りも3軒ぐらい、もうすぐ空き家になっちゃうよというような話も既に相当の数あるわけですから、もう少し踏み込んで、行政がもう少し踏み込んで、空き家をきちっと調査をしてですね、そこに家主の方と直接話をしながら借りられるような形に、できれば定住化されたね、例えばの例ですけども、子供3人連れの子育て中の世帯だったら家賃補助しますよとかね、そういうよそにはない優遇措置をとっていただければ、人口ふえるわけですよ。1人ふえることによって交付税、地方交付税が年間どのくらい1人に対して交付されるのか、詳しい数字はわかりませんが、そのかけた費用ぐらいは、その家族

の所得税か、そういうのも含めたらペイできるはずだと思うんですけども、そういう取り組みはできるかどうか、その辺をお伺いします。

定住少子化担当課長     ありがとうございます。まず、空き家については寄地区も含めて、町内も含めてですね、実際に歩きながら、また所有者の意向も確認しながらということで順次進めているところでございます。なかなか所有者の確認等の中で時間を費やしている部分がございますが、継続して進めていく中で意向確認をして、空家バンクの登録につなげていきたいというようなことで考えているところでございます。また、その中で、定住につなげる中の家賃補助とかですね、そういったものについても、今現在は民間の建物に対して、空き家登録したところに対してということの中でですね、子育て世帯あるいは若年世帯に対しての家賃補助というような制度も設けているところでございます。継続してこういった活動に、制度についても周知していきながら、先ほどの交流人口を定住につなげていくような仕組みを続けていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

12番 大 館     今までも取り組みをされてきたし、空家バンク等はなかなか登録されないとか、何か田舎へ行けば行くほど、自分で住んでいた家を人に貸したくないという、そういう感情的なものがあるんですけども、その辺をいかにクリアするか。行政と家主さんとが信頼関係で結べるような、もう一步踏み込んだ、何ていうのかな、行動というのかな、そういうのをしてもらえれば、もっと成果が上がってくると思うんで、もう先ほど言ったように、課ができて年数もかなりたってますよね。四、五年たっているんですか。ですから、そろそろ、自分もせっかちな性格なものでそろそろ成果を見たいとか、何か、なかなか目に見えた成果が、努力はされているのはわかりますよ、対外的に。そういうのはわかりますけれども、もう少し、目に見えた成果が出るように頑張っていたきたいなと思います。

それとですね、やはり寄地域で、そういう人が来ることによって、松田地域でも商店街利用される方も必ずふえてくると思うんです、駅前も含めてね。ですから、そういうことで交流人口をふやすことの意義があると思うんですけども、これから松田地域については、先ほど要旨の中でも言いましたように、小

学校の建てかえ等ね、町営住宅もつくられたり、そういうこと対策をされてですね、活性化が着々と進んでいるわけですから、あわせて寄地域は今ある資源を利用して、極力お金をかけないで、知恵と汗で稼げる地域にしてほしいなと。それに対しては、協力は惜しまないつもりです。ですから、ぜひ、そういう行動を起こしていただきたいなと思います。それがですね、松田町全体のオール松田という言葉につながっていくのかなと考えています。

けさはですね、ちょっと私用で早く起きちゃったもので、朝御飯が少ししか食べられなかったんで、腹減っちゃったんで、まだ時間はたっぷりありますけれども、思いは話をしたつもりなんで、ぜひその意を酌んでいただいてですね、よろしく、これから御協力をいただければ、我々も全面的に汗を流しますので、よろしく願いして終わりにしたいと思います。はい、よろしく願いします。

町 長 おなかが減られているとこ申しわけございません。非常にいい話だというふうに、本当に聞いていました。確かにですね、私、この間も青壮年部の方々の会議に行って、若い方たくさんいらっしゃるんですよ。ちょっとお年を召されている方もいますけど、若い人、ソフトボール大会に行くと本当によくわかる。みんな集まってきている。しかし、そこの方々と、松田町の若い方とがじゃあ一緒になって、松田全体をどうしようかというような話となると、ちょっとやっぱり少ないというか、記憶にないので、そういう関係もつくりつつ、一般的に今まで何か会議やると、寄のほうから10人といたら3人とか7人とか、そんな割合で話をしているんですよ。だから、今おっしゃられるように、そこに行くことによって地域におりていくという、そういうつながりが、ちょっとやっぱり薄いなというのをよく感じましたので、これはちょっとまた、これはもう我々全庁的に職員の中でちょっと検討してですね、さまざまな事業について、そういうような、とにかく連携をとって、とにかく巻き込むというふうな格好でできればなというふうに感じましたので、非常にいい提案をいただきましたので、感謝を申し上げて終わりにします。ありがとうございました。

副 議 長 以上で受付番号第10号、大館秀孝君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。なお、休憩中に昼食をとっていただき、午後は1時から再開いたします。

(11時41分)